

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成30年12月31日現在

今月の重点活動

■いちご JAぎふいちご産地連絡協議会発足

12月5日、管内のいちご産地代表者及び関係機関が参集し、JAぎふいちご産地連絡協議会が発足した。

当協議会は、管内のいちご産地が連携し、産地強化と経営の安定化を図ることを目的とし、6つのいちご生産組織（岐阜市、本巣地域、羽島市、各務原市、佐波地区、伊自良地区）代表者、関係機関（JAぎふ、JA全農岐阜、岐阜農林事務所）から構成されている。

今後、当協議会では、産地全体に係わる課題（パッキングセンターの運用、新規就農者の確保・定着等）が検討されることとなり、農業普及課でも、積極的に活動を支援していく予定である。
（園芸産地支援第一係・菊井裕人、三和浩一）



【発足会議の様子】

多様な担い手づくり

■本巣市（金原地区・外山地区） 担い手育成重点推進地域チーム員会議開催

12月12日、本巣市役所糸貫分庁舎において、本巣市金原地区、外山地区の各代表者及び市、JAぎふ、当事務所等で構成する推進チーム員会議を地区別に開催した。

本巣市金原地区では、9月に地区の代表者6人で「金原地区の農業を考える会」が設立され、水田農業の組織化を目指す集落の話し合いがスタートしたことを受け、4月設立に向けたスケジュールを確認し、事業計画等の準備を進めることとなった。

また、外山地区は、法人による集落営農を目指しており、法人形態等について検討してきた結果、構成員4人で農事組合法人を設立する方針が確認された。

農業普及課では、今後、アンケート結果を踏まえた営農計画の作成等、新年度設立に向けた支援を行う。
（地域支援第三係・飯沼清敏）

■羽島市上中地区 農地集積に向けて

羽島市上中地区では、昨年からの担い手ごとに営農エリアを設定し、農地集積を進めている。

12月20日、JAぎふ羽島東支店において、羽島市及びJAぎふの共催により、農地利用集積会議が開催され、同市、JA並びに水田農業の担い手、農業普及課が出席し、今年度の農地集積状況を確認し、次年度の課題等について意見交換を行った。

会議では、担い手からは、農地の集積・集約による作業の効率化、面積拡大等を評価する一方で、ほ場や用水条件を把握できず、適切な管理ができなかった等の意見も出され、今後の課題も浮き彫りとなった。

農業普及課では、今後も関係機関と連携し、課題解決を通じた更なる農地集積支援を継続する。
（地域支援第二係・今井啓司）



【農地利用集積会議の様子】

売れるブランドづくり

■水稲 JAぎふ水田農業担い手連絡協議会研究交流会開催

12月17日、JAぎふアグリパークにおいて、管内の水田農業担い手農家、JAぎふ、JA全農岐阜、農業資材・機械メーカー、当事務所など約350名が出席し、第13回JAぎふ水田農業担い手連絡協議会・研究交流会が開催された。

JA全農岐阜から米穀情勢報告の後、味の素冷凍食品から、「加工メーカーの求める米」と題する講演があり、業務・加工用米の需要の高まりに対応した米生産に取り組むことの重要性を再確認した。

農業普及課からは、今年の水稲作柄状況、多収性品種に係る2年間の実証結果を紹介し、それを受けてJAぎふから、次年度以降は多収性品種として「ほしじるし」



【研究交流会の様子】

「にじのきらめき」を推進する意向が示された。

農業普及課では、引き続き多収性品種の栽培実証と生産技術の確立へ向けた支援を行っていく。
(地域支援第一係・小島康平)

■祝だいこん 出荷目揃会開催

12月17日、JAぎふ則武支店において、祝だいこんの出荷目揃会が開催された。今年は、は種期以降の温暖化により、例年より根部肥大と葉の伸長とも順調に推移した中での出荷始めとなった。

消費者や市場のニーズは、従来の3本束から2本束、バラなどの少量購入に変化しており、今年産も原則バラ出荷となった。出荷量は、昨年をやや上回る約60万本を見込んでいる。

農業普及課からは、今年の実績経過、生育調査結果の情報提供と選別基準・出荷規格の遵守などについて指導を行った。

祝だいこんは、12月21日～28日までの期間限定で大阪市場に出荷され、関西のお正月には欠かせないお雑煮の具材として使用される。
(園芸産地支援第一係・高橋幸蔵)



【目揃会の様子】

■にんじん 肥料改善試験ほ調査

各務原市のにんじんほ場は、これまでの土壌調査により、りん酸過剰、加里・苦土が不足気味の状態であることが判明したため、平成29年産冬にんじんから施肥設計を変更している。

本年産の春夏、冬にんじんにおいても、りん酸を減らし加里を増した試作肥料の試験を継続実施し、慣行肥料栽培と収量・品質、土壌状態を比較し、今後の導入に向けて検討することとしており、11月26日、12月3日に関係肥料メーカーと連携し2か所の試験ほ場において調査を実施した。

農業普及課では、関係機関と連携し、土壌分析結果に基づいた収量・品質の向上について検討し、各務原にんじんのブランド強化の支援を継続する。
(地域支援第二係・近藤 徹)



【調査の実施状況】

■カキ 間伐・整枝剪定研修会開催

本年度の柿出荷は、早秋・太秋から袋掛け富有柿まで、例年よりやや早く、12月第2週目で概ね終了した。本年は、夏期の高湿少雨や9月の台風など自然災害に見舞われた年となり、昨年対比で80%前後の出荷量ながら、概ね当初計画どおり終了できた。

柿出荷終了に伴い、各産地では、次年度の栽培に向けた反省会や間伐・整枝剪定講習会を開催し、農業普及課では、現地実習を中心に技術支援を行っている。

(園芸産地支援第二係・鷲見彩子、西垣 孝)



【講習会の様子】

住みよい農村づくり

■山県市大桑地区 新そば試食会開催

12月6日、山県市大桑多目的研修センターにおいて、(農)おおがが生産した新そばを使用した蕎麦の試食会が開催され、蕎麦、3品種の塩むすび、イノシシ汁が提供され、自治会関係者、市、JAなど多数の参加者が舌鼓を打った。

蕎麦の味に対する評価は高く、大桑地内でこの蕎麦が味わえないかとの意見が多く、生産振興と、消費拡大を目的にした協議会の立ち上げを検討する運びとなった。

(農)おおがでは、作付拡大を目指しており、農業普及課では、そばの安定生産に向けた支援を行う。



【試食会提供メニュー】
(地域支援第三係・宮木英有)